



NIPT・・・新型出生前検査??



NIPTは、Non-Invasive Prenatal Genetic Testingの略で、日本語では無侵襲的出生前遺伝学的検査あるいは母体血胎児染色体検査と呼ばれています。平成24年8月に「採血するだけでダウン症の胎児を99%以上の確率で判定する新型出生前検査が始まる」というニュースが日本中を駆け巡りました。この検査はアメリカで既に導入されており、我が国でも導入が検討されているところでした。このニュースに対して、さまざまな議論が起こりました。最も大きな問題の一つは、「なぜ、ダウン症だけが特別視されるのか?」ということでした。この名前は、「アップ & ダウン」ではなく、最初に報告したダウン医師に由来します。ヒトには、両親から23本ずつもらった23対46本の染色体があり、大きい順に1から番号が付けられています。ダウン症は21番目の染色体が通常は対(2本)であるところが3本あり、このため21トリソミーとも呼ばれます(トリはラテン語あるいはギリシャ語のtriで、数字の3を意味します)。発達が緩やかではありますが、50年以上の人生を歩むことが可能です。最初の文章には「ダウン症の子どもは、発達の仕方が多くの子供達と異なるから選別されなければいけないのか?」という大きな問題を含んでいます。このことについては、また別の号でお話ししたいと思います。

この検査の原理について、例えを用いて説明します。子どもの頃に、ヒヤシンスの水耕栽培をしたことがある人も多いのではないかと思います。ヒヤシンスは水の中(お母さんの体)に根(胎盤)を広げ、花(赤ちゃん)を咲かせます。根(胎盤)は新陳代謝を繰り返しており、古くなった細胞は壊れて(DNAの断片となって)水の中(お母さんの体)にこぼれて行きます。このため、お腹の中に赤ちゃんがいる時だけお母さんの体の中には、お母さん自身の細胞が壊れてできたDNAの断片と同時に、胎児のDNAも流れています。したがって、お母さんから採血すれば、赤ちゃんのDNAを調べることが可能になります。21番目の染色体が3本あると、壊れた時にできる21番染色体由来のDNAが少しだけ多くなります。この少しだけ多くなっている状態を「次世代シーケンサー」という新しい装置を用いて見つけ出すことによって診断が行なわれます。

ところで、「99%以上」という数字も多くの誤解を含んだまま、数字だけが広まってしまいました。少し詳しく説明します。この検査は、感度(患者が正しく患者と診断される確立)が99.1%、特異度(非患者が正しく非患者と診断される確立)が99.9%と報告されています(非患者なのに0.1%は患者と診断されてしまいます)。患者の割合が1000人に1人と少ない集団(ダウン症の頻度でいえば35歳未満に相当)の10000人(10人患者がいる)に検査を施行すると、患者のうち99.1%が検査陽性(10人×99.1%=9.91人)として見つかりますが、非患者のうち0.1%(9990人×0.1%=9.99人)が検査陽性(患者疑い)となります。つまり、検査結果が陽性と出ても本当に患者である確立は、9.91/(9.91+9.99)、簡単に書けば、1/2(50%)ということになります。少し難しくなりましたが、若い人が検査を受けた場合、陽性と出ても半分は正常であり、誤った判断がなされる危険性があるのです。このため検査の対象は、分娩予定日の時点で35歳以上の人、21トリソミー、18トリソミー、13トリソミーの胎児を妊娠したことのある人、超音波検査等で前記の染色体異常が疑われる人に限られており、陽性となった場合には羊水検査で確認することが義務づけられています。

採血するだけで胎児のことがわかるという手軽に考えられがちな検査ですが、その解釈が難しく多くの問題を含んでいるため、臨床遺伝専門医や遺伝カウンセラーがいる施設でのみ、臨床研究として認められています。検査施設は全国に50施設あります(平成27年4月現在)。山口県では、県立総合医療センターが担当しています。検査を希望される方は、担当医の先生に紹介状と資料を頂いてください。特別な検査機器が必要ですので、21万円という高額な費用がかかります。適切にNIPTを用いることにより、不要な不安が解消され、充実した妊娠ライフが送れることを願っています。

総合周産期母子医療センター長 佐世 正勝



「おぎゃー!!」 in 助産院 Sun

助産院でお産ができる方は、
 ※妊娠経過が正常な経産婦さんで、医師より助産院でのお産が可能と言われた方
 ※ご本人とご家族が、助産院でのお産を希望されている方
 ※当病院の産科外来を受診されている方です。



院内助産院でお産をされたお母さんにお話を伺いました。今号は、今年の11月に出産された 福田 加奈さんです。

現在の心境は?

赤ちゃんが、『オギヤア!!』と元気に産まれて来てくれて、本当に嬉しいし、赤ちゃんを見つめているとすごく幸せで、ほんわかした気持ちになります。妊娠して、つわりがつらくて、大変な時期もあったけれど、あ〜つという間で、「赤ちゃんがいるまんまるおなかは幸せだったなあ、少し淋しい気もするなあ」と、振り返ってみてそう思います。

助産院でお産をすることで不安な事はありましたか?

畳の上に布団を敷いて、そこでお産!というイメージがなかなか出来づらくて、「自分はうまくできるかなあ?」という気持ちはありました。

「いざ、お産!」の時、どうでしたか?

予定日より2週間早く、夜中に突然強い陣痛がきて、心の準備が全く出来ていないまま、あれよあれよとお産に入りました。



『はじめての抱っこ』

とにかく驚くほど痛くて、「もうダメかもしれん! くじけそう!」と何度も思うのですが、助産師さん達が産の間中、腰や背中を一生懸命さすってくださったり、呼吸を整えてくださったり、的確なアドバイスをずっとくださいました。家族もみんな側で寄り添ってくれました。だからすごく頑張れました!

助産院でお産をされて、過ごされてみてどうでしたか?

助産院の畳のお部屋は、とてもリラックスして過ごせました。自分の部屋のようにホッとするし、4歳の娘や家族や友人も気軽に来れるし、楽しい時間も過ごせました。

産後、私はお乳が張りすぎて痛くて悩んだのですが、助産師さんが親身になってくれて、ケアしてくださいました。その他、体調面や赤ちゃんのこともしっかり対応してください、とても頼りになりました! ありがたかったです。



『天使のよう♪』



よりと
福田 頼人 くん
平成26年11月30日 生まれ

「頼人 よりと」

赤ちゃんが男の子だったら、ずっと前から『頼』という字を使いたいなと思っていました。「周りから信頼される、大きなハートを持った、頼りになる人に成長して行ってネ」その願いを込めて、この名前を付けました。



助産院Sunスタッフより

入院されてから、すぐに有効陣痛が押し寄せてきましたね? でも一気というわけではなく、どンドンと進んできたな〜という印象でした。

いよいよ出生の時、みんな固唾を飲んで見守られ、「オギヤア」と泣いた瞬間、枕元のお母様2人が歓声とともに抱き合われ、ご主人とお姉ちゃんはまばたきもせずにバンザイされました。今まで頑張ったこと、もやもやしたこと、全部頼人くんの出産で発散でき、彼は家族みんなの幸せを運んでくれた『天使』ですね。きっと頼りになる“持つてる男”に成長してくれることと思います。(前田)

センター稼働状況

分娩数	64件	緊急帝王切開	5件
母体搬送	3件	NICU稼働率	75.0%
新生児搬送	2件	MFICU稼働率	91.9%

(平成27年3月)

「観覧車にのったよ!」



by. お飾り隊

編集後記

桜も満開になり、徐々に暖かくなるはずが寒かったりと、気温が不安定な日が続きますね。こういった激しい寒暖差に体の機能が追いつかず新しい環境へのストレスで『春バテ』になる方も多そうです。春バテを予防するには、睡眠と栄養が大切だとか。夜はお風呂に入って体をしっかりと温め、就寝前はリラックスするなど、少しづつできることから心がけていきたいですね。(T.O★N.S★K.H)



周産期センター
キャラクター
マミー&メイ